

# 科技高 いきもの記 Vol.8 2020.8.25

佐藤龍平

## ラッパみたいな口をもつウミウシ メリベウミウシ

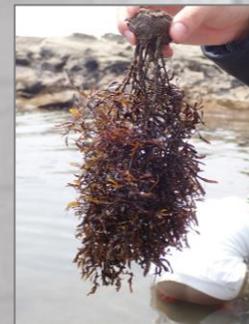


大きな口を持つメリベウミウシ。なんだか笑っているようにも見えてきてかわいらしい。

8月18日、神奈川県三浦半島の先端部に位置する「三浦海岸」で、磯場の生物の観察を行った。いつもだったら生物採集は生徒に任せて、私はのんびり海を眺めているのだが、今回はそうはいかない。参加生徒のほぼ全員が生物観察の初心者なのである。なんとか色々な生き物を見せてあげたいと思って、今回ばかりはいつもにも増して張り切っていた。だいたいこういう風に張り切っているときは失敗するもので、ウミウシを探しても見つからないし、大きなカニを追いかけまわせばあざ笑うかのように逃げられてしまった。落胆していると、いつのまにやら網の中に黄色いヌメヌメしたものが入っているのに気がついた。「どう見ても海藻だ」と瞬時に判断し、放り捨てようとするすんでのところ「...いや待て、ちゃんと見てみよう!」と思いとどまった。

よく見てみると、黄色いヌメヌメの正体は紛れもなくウミウシであった。いつの間にか、ウミウシを捕まえていたのだ。しかも**今まで三浦海岸で一度も見たことがない「メリベウミウシ」**だ。捨てなくてよかった...。大きな口と、背中にたくさん生えた突起が特徴的。こんな**奇妙奇天烈な形の口**をもつウミウシは他にはいない。水の中に入れてみると、色は地味だが、くねくね体をよじらせる様子非常にかわいらしかった。先入観とは恐ろしいもので、私はこの時「ウミウシだったらもっと小さくて色鮮やかなはずだ」と思ってしまい危うく海に投げ捨ててしまうところだった。何事もしっかりと観察することが大切、と改めて思い知ったのであった。このあと生徒も自力でこのウミウシを見つけていて、嬉しそうだった。

興味深いのは、昨年も同じ時期にこの場に来たが、見つかったウミウシは全く違う種類であったことだ。というか、**来るたびに**見られるウミウシの種類が違っている。時期だけでなく、気温や梅雨明けからの時間、生えている海藻の種類など、様々なことが複雑に関わり合っているのだろう。生物を観察しているということとはよくあることだ。たとえ同じ場所であっても**何度も足を運ぶことで**見えてくることもあるのだ。



↑メリベウミウシが見つかった周辺に生えていた海藻。茶色っぽい褐藻の仲間。メリベウミウシはこの海藻の色に擬態しているのだろうか。



←口を開く様子。

この大きな口でエビなどの小型の甲殻類などを捕らえて丸ごと食べてしまう。からだが半透明なので内臓が透けて見えている。

ウミウシは軟体動物腹足綱に属する巻貝の仲間だが、貝殻は退化していることが多い。英語でウミウシはSea slug (海の名メクジ) という。